

の日本領海内で起きた中国漁船衝突事件を受けて、中国政府が、同諸島近海で、漁業監視船による自国漁船の護衛とパトロールを常態化させる方針を固めたことが27日、わかった。

同諸島周辺では、漁業監視船「201号」と「204号」が活動中だという。当局者は中国漁業報に対し、「漁民の生命・財産の安全を適切に保護するため、今後、漁業監視船は釣魚島周辺でパトロール活動を常態化、強化しなければならぬ」と強調した。

# 見聞録

2010

## 揺れに備えて ①

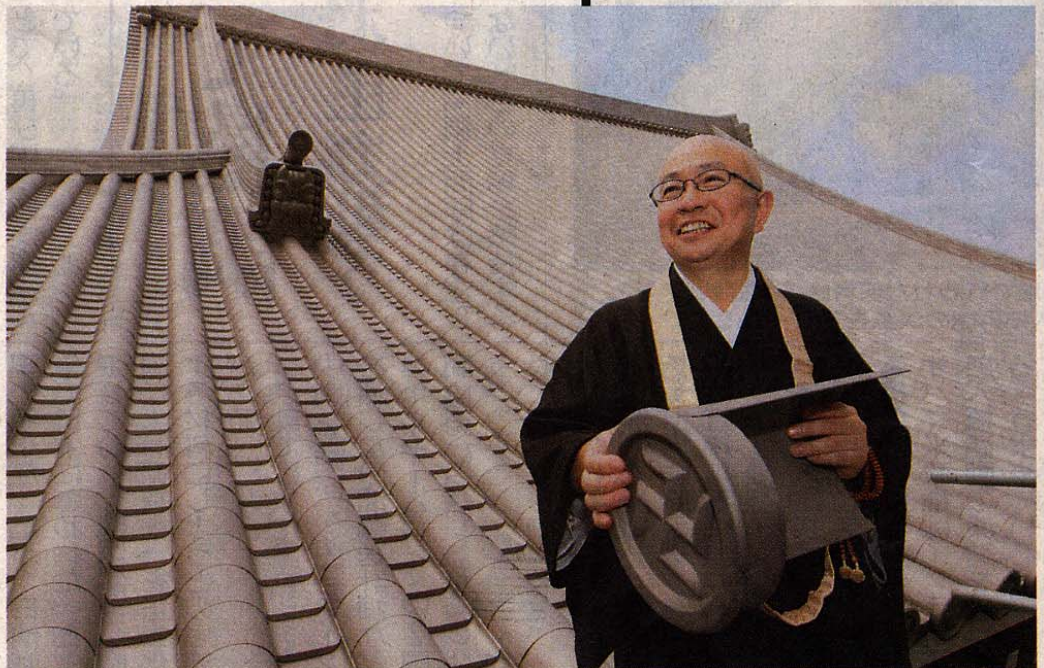
チタン。強くて錆びず、酸性雨にも耐える。

「軽いですよ」。一緒に足場が上がってくれた執事長の守山雄順さん(57)が手にしていたチタン瓦を持たせてもらおうと、拍子抜けするほど軽かった。これが、屋根にズラリと並ぶ瓦だと1枚約100〜120gと

高さ29・4mある本堂の外側に仮設された工事やぐらを上ると、軒先付近にある足場のところで一気に視界が開けた。屋根を見上げると、葺き替えられたばかりの瓦が穏やかな光沢を放っていた。

東京は下町・浅草の観音様として親しまれている浅草寺の「平成の本堂大改修」の目玉は、小さな揺れでも落下の恐れが出始めていた瓦の葺き替えだ。新しい瓦の材質は、高級ゴルフクラブやジェット機に使われる

1703年の元禄地震、



# 浅草寺 瓦はチタン

【北京＝佐伯聡士】中国河北省石家庄市で「軍事目標」を不法に撮影したとして、中堅ゼネコン「フジタ」の社員4人が中国当局に拘束された事件で、堀之内秀久・駐中国公使は26日夜、中国外務省の邱学軍・領事局副局长に対し、4人の身柄の安全確保、大使館員との面会や弁護士による接見、人道的な観点からの迅速な処理を電話で申し入れた。これに対して、邱副局长は「身柄の安全は保証する」とした上で、「中国の法律に基づいて、公正に審理される。日本側の重大な関心については外務省の指導者に伝達する」と語った。

「記録では、本堂の倒壊で人が出たことはないようです」と語る執事長の守山さん(小林武仁撮影)

返す。5年前には耐震診断を受けて補強を行い、今度はチタンで屋根を軽くした。

工事費込みでかかるコストは普通の瓦の2倍強。一般住宅だと割高だが、建物も瓦も息長く使う寺院や神社にとつて、劣化せず揺れへの備えにもつ

ながるチタンは頼もしい素材だ。京都市の北野天満宮宝物殿、金閣寺茶室(常足亭)、佐賀県の瀧光徳寺本堂……。建材商社の日本鉄板によると、チタン葺きの寺社建築は少しずつ増えているという。

1855年の安政江戸地震、1923年の関東大震災、1945年の東京大空襲で焼失。戦後、再建された今の本堂は、火災に強い鉄筋コンクリート造りだ。ただ、00年は、本堂が倒壊することはなかったらしい。境内は参拝者で常にごった

足場から下りると、浅草

(編集委員 堀井宏悦)